

第2回 第5次加西市総合計画検討委員会

日時：平成22年7月23日（金）

19：00～20：30

場所：加西市役所 多目的ホール

【次第】

1. 開会
2. 総合計画「基本構想」骨子（案）について（説明・協議）
3. 市民参画ワークショップ会議の提案書について（説明）
4. 総合計画「基本計画」枠組（案）について（説明・協議）
5. ワークシート記入
6. 閉会

【質疑応答要旨】

委員：人口減少対策とあるが、人口が減ることを前提として対策を考えるのか。

事務局：一方については、そうです。

委員：もう一方は、減少抑制ということだが、増やす、減少を食い止めるためにはどういう手を打つのか。出生率の向上や流入の促進、いろいろな対策が出てくる。例えば、雇用の拡大、退職者の受け入れ、市外で退職した人が戻ってくるようなことも必要。こうした、流入促進のためには、水道料金等、生活費を安く、交通を便利にすることが必要。流出抑制については、まずは健康できなければいけないし、雇用の拡大、公共交通機関を充実させ、通勤圏を拡大することでベッドタウン化を図ることも考えられる。人口が減少する理由は、まちに魅力がないから。他市より良い所がないといけない。寿命で亡くなる人がおり、子どもをつくらないと自然減になる。地域におせっかいさんがいて、まちぐるみで結婚させようという空気をつくるのはどうか。実際に、村・町を上げて支援して、若い夫婦が住みやすくしているまちもある。アルバイトでも月20万円の収入で独身者の実家暮らしなら、小遣い制のサラリーマンよりも良い生活ができるが、結婚するともっと良いことがあるということを伝えることで、結婚させる。また、こうした人口増加策を考えたとしても、財源はどうするのか。税収のシミュレーション等をオープンにするべき。先立つものがなければ何もできない。行政サービスが低下して、また外に出て行く人が増える。農商工

が一体となって、加西市にお金を落としてもらおう仕組みをつくる必要がある。今回初めて減少するシミュレーションになっているが、今だからこそ増やすことが必要ではないか。7万人を目指すなら何が必要か考える。

事務局：財源も含めた舵取りを検討している。今後は、まちの魅力の差が人口の差になってくると思う。行政だけでは難しい。住民の皆様の意見も取り入れたい。

委員：12ページが一番下の年齢3区分別人口の生産年齢人口（15-64歳）が全体の半分いない状態となっている。定年は60歳なので、実際にはもっと少ない。生産年齢人口という表現を変更したほうが良いのでは。人口が減るとできないものもでてくる。「環境」「農業」は逆行している。食べる人が減る、ため池も減る。生物多様性を謳っても、逆行しているのでは。人口が減ると健康な森林を維持することもできない。また、農業基盤、農業高校、農業研究所があるのになぜ活用しないのか。存在感がない。地域とのつながりをもっとアタックして農業を活性化すべき。真剣に取り組んでいくことが必要。

委員：10年前の総合計画の策定では、平成12年に6万人にする計画だったが、現実には減少し、今度は40,000人となる推計が出ている。前回の計画でも夢をみて55,000人で計画したが、今回はもっと現実を見るべき。まずは空き家を減らすなどの対策から検討した方が良い。大きな計画を立ててもだめ。

事務局：人口が減少するからそれで良いとは考えていない。これからの10年は人口が減っていくことを前提としたまちづくりとなる。増やすには増やすりの計画が必要になる。何らかの形で人口減少抑制、増加策が必要になってくる。

委員：本気度が必要。人口をプラスにするために何をするか。計画に夢だけ書いてもだめ。目標を達成しないということは、民間なら誰かが責任をとったり、会社がつぶれたりする。その達成のために本気になって取り掛かるべき。日本・世界の良い施策を真似て実行しながら、オリジナリティを取り入れていく。本気で考えた時には、金と知恵が必要になる。

委員：6万人を目指して、駅前開発等、お金も人もかけたが、人口は増加しなかった。それでも4次計画では、52000人+αで55,000人とした。

事務局：出生数、流入人口数の増加を目標としたい。また、他市の事例を真似たり、お金をかけたりしていくのが本気度であると捉えている。

委員：年度ごとに「ここ」という所に予算を集中投下して、結果を出すと市民も応援してくれるのではないか。

委員：ソフト・ハードの両面で、良い学校ができれば周りにPRできる。リチウム工場には、1,000人以上の雇用があると聞いた。マンション等も増えていくと思う。入居者は独身が多いかもしれないが、家族、子どもがいる人が来るのであれば、良い学校があることは魅力になり、人口増加につながるのではないか。人が多くなれば、商店街の活性化につながり、衣食住や全体が良くなる。教員の確保など、予算の問題もあるが、検討してほしい。

委員：サンヨーには、何人来るのか。

事務局：公式には発表されていない。

委員：1,000人と聞いた。

委員：最盛期には1,300人が働いていたが。本当に1,000人も来るのか。

委員：ほっておいたら40,000人になってしまうという推計だが、これをどうしたいかこの会議で決めるのか。

事務局：そういう計画の持ち方、目標は難しいので、人口減少を抑制、増加を検討していく形にしたい。

委員：目標がなければまた同じことではないか。

事務局：流入人口等、具体的に目標を設定したい。

委員：最終的な人口の目標は必要ではないか。

委員：将来のあるべき姿が「人口増加」なのではないか。事務局が掲げている元気力ではそれを図る統計資料がない。例えば、経済効果（イオン、サンヨー）を測定し、経済力をつけていくなどの設定が必要だが、やはり人口増加で6万人を目指すのが良いと考えてしまう。

委員：現在の状況から、実際には人口増加は難しいのではないか。人口が少ないなりの利

点もあるのではないか。

事務局：人口の指標については、細かく設定していきたい。

委員：1,000人増やすか、3,000人か、10,000人増やすのかによって、必要となる施策は変わる。そのため、目標が必要だし、達成できなかったらペナルティがあるということも必要では。生産量等の数字はだせないのか。GDPはどうか。

事務局：出すのは問題ない。

委員：基本構想では、5W1Hまでの細かいレベルまでは出さないのか。

事務局：基本計画の方で記載していく。

委員：サンヨー、イオンの経済効果等の数字を出さないと検討できない。

委員：全体的に文章が読みにくい。(レイアウト、表現含む) この計画は、誰に見せるのか。また、文章中で、住民と市民は使い分けているのか。